

すまいまちななぶプロジェクト

大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会

実施学年：3年
生徒数：54人（2学級）

実施教科：総合学習
実施時間数：2時間

準備

- ・小学校の要請を受け、本会役員と事務局職員が小学校に赴き、担当教員他と面談して打合せを行います。
- ・担当教員から小学校3年生の学習指針及び要望を伺い、授業の進め方、タイムスケジュール、児童の移動、児童の班分け、準備品などについて確認をします。

指導方針

- ・講義並びに体験スタッフは全て本会に所属する建築士が担い、専門的な視点による指導を行います。
- ・教員には主に児童の誘導と講義の進め方を見学いただき、教員が指導する以降の学習に役立てていただけるように、当日の講義内容のCD-Rを提供します。

授業1の概要

- ・JR大阪駅および大阪中央公会堂を事例として、車いす利用者や視覚障がい者へのバリアフリーの工夫を紹介します。
- ・バリアフリーの工夫されている箇所・理由などについて、児童が理解を深めることができるように具体的な例を提示します。

授業2の概要

- ・視覚障がい者が用いる白杖、ユニバーサルデザイン商品、点字本、ピクチャーサインなどを通してハンディキャップを体験します。
- ・視覚障がい者向けブラインドサッカーやオセロゲームを通して、障がい者と健常者がともに楽しめる活動を紹介します。



＜障がい者の誘導体験＞



＜ユニバーサル商品の紹介＞

学習のねらい

児童が、高齢者や障がい者が安心して社会生活を送るために、建物やまちの中に潜む危険や不具合を発見し、解決する工夫を考えて実践できる契機となる授業を行います。

学習活動

- (1) 小学校低学年の児童が対象であることから、説明を平易かつ丁寧にする。
- (2) バリアフリーの考え方の原点、ユニバーサルデザインへの発展、様々なハンディキャップを持つ多様な人々がより快適に安心して暮らせるような建築やまちづくりについて学びます。
- (3) 建築士の視点から、建物やまちなみにある社会生活に支障をきたす課題の解決策としての工夫を具体的に児童に示し、児童自ら考える契機にします。
- (4) 児童が、自分たちの住んでいる地域について、学習した課題や工夫を具体的に体験し、改善点を考えることが大切であることを指導します。

準備品

本会：PC、白杖、点字タイル、ユニバーサルデザイン商品、養生テープ 他
学校：プロジェクター、長テーブル、マット、跳び箱、三角コーン 他

実施場所

摂津市立味生小学校 体育館

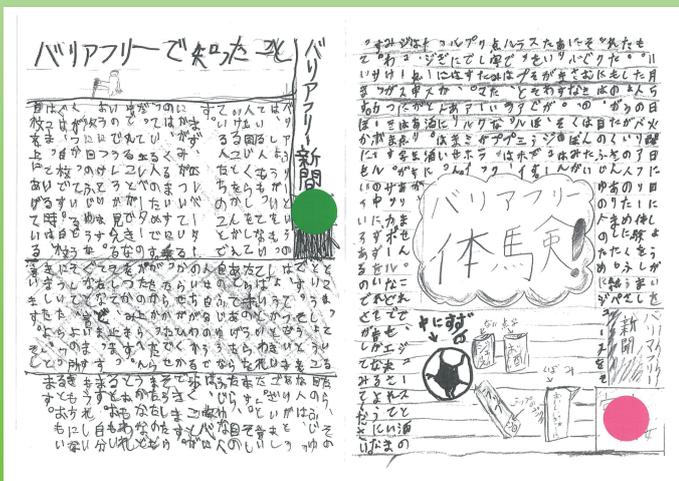
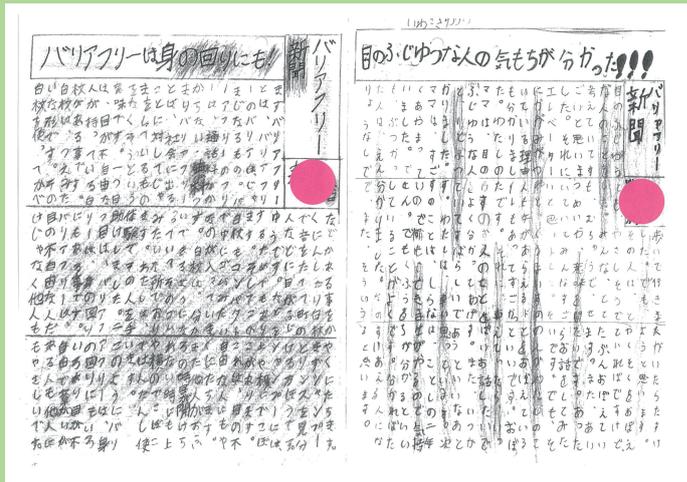
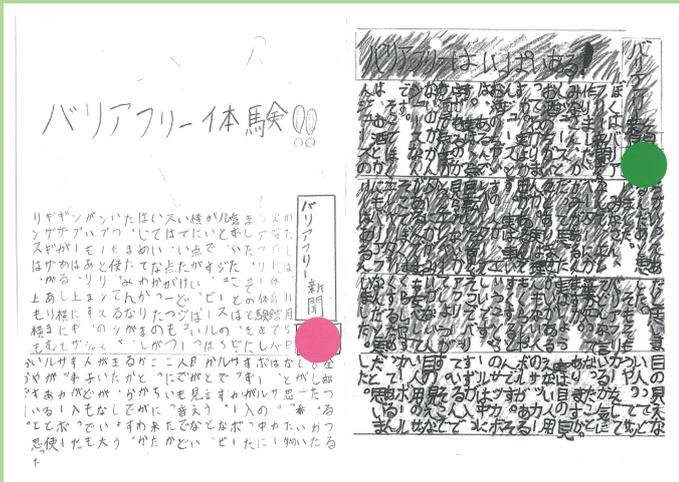
学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>体育館</p> <p>20分</p>	<p>(1) JR 大阪駅のバリアフリーの工夫をパワーポイントで説明</p> <p><車いす利用者への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先エレベーターがある ・操作盤が使いやすい位置にある ・操作盤の表示が大きい ・エレベーター内の鏡でバックでも出ることができる ・広い通路幅の改札機がある <p><視覚障がい者への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・黄色の点字タイルで誘導される ・手摺に点字表示がある ・介助者と二人で通れる通路幅が広い改札機がある <p>(2) 中央公会堂のバリアフリーの工夫をパワーポイントで説明</p> <p><車いす利用者への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄関階段横にスロープと手すりがある ・内部の通路も広く、段差も2センチ以内に押さえられている ・客席に車いす専用のスペースがある ・トイレは、ドアのロック、引き戸、洗浄ボタン、自動水栓等が使いやすい位置にある ・施設内には昇降リフトが設置されている <p><視覚障がい者への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最寄り駅より施設まで点字タイルで誘導されている ・トイレは、大きくわかりやすい洗浄ボタンや非常ボタンがある 		<ol style="list-style-type: none"> ①バリアフリーという言葉を知った。障害者高齢者にはとても大切なものだとわかった ②点字ブロックの上に物や自転車をおかないようにしよう。 ③エレベーターに鏡が付いている意味がわかった ④トイレの工夫もすごかった。人のことをよくわかってあげていて素晴らしいと思う ⑤階段、エレベーター、洗面所にも工夫があつてすごい。 ⑥車いすで階段は無理なので、スロープが付いているのは便利。
<p>体育館</p> <p>5分</p>	<p>(3) 白杖の使い方、白杖を持っている意味について説明</p> <p>(4) 視覚障がい者の見え方を写真で説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正常な見え方 ・暗く感じる見え方 ・白く濁った見え方 ・まぶしさを感じる見え方 ・視野の中心がゆがむ見え方 ・視野の一部が欠けた見え方 ・視野の中心だけが見える見え方 <p>(5) 白杖を持った視覚障がい者の不便さを知り、周囲の人たちの気配りの大切さを説明する。</p>		

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>体育館</p> <p>10分</p>	<p>(6) 白杖ガイドの体験</p> <p>白杖を持った視覚障がい者に対して、ガイドの声掛けや誘導の注意点を説明</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 何かお手伝いしましょうかと声を掛ける 2. 急に握ると恐怖を与えるので白杖を持っていない側の手の甲に手を当てる。 3. 白杖を持っていない側の手で介助者のひじの上を持ってもらい歩調を合わせながら半歩先を歩く。 4. 視覚障がい者の方に身体を向けると肩が回転し方向が分からなくなるので危険。 5. 上り階段では自分が一段上がってから、下り階段では一段下りてから伝える。 <p>* 建築士が視覚障がい者を務め、児童がガイドとなり、声掛けから誘導を体験する。</p> <p>* 跳び箱、三角コーンは、障害物や壁、マットは段差としている。点字タイルでルートを作り、スタート地点からゴール地点まで誘導する。</p>		<p>* 白杖ガイドの体験</p> <ol style="list-style-type: none"> ①これから声掛けしようと思う。 ②点字ブロックの上に立っている人を見て危ないなと思ったことがある。 ③みんな障がい者の人に譲ることをしよう ④いろんな不自由な人を見つけて助けてあげようと思う。 ⑤ママが目の不自由な人とぶつかってすごく誤っていた。 ⑥助けてあげてお礼を言われたら自分もうれしい気持ちになると思います。
<p>体育館</p> <p>10分</p>	<p>(7) ユニバーサルデザイン商品の紹介</p> <p><違いでわかる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 缶のお酒と缶のジュースやお茶の違い⇒缶のお酒の上部にお酒の点字がある ・ 牛乳パックとその他のパックの違い⇒牛乳パック上部に切り欠き ・ シャンプー・リンスのボトルの違い⇒シャンプーにはギザギザたてライン <p><使い方が簡単></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウエットティッシュケースの蓋⇒片手で使える ・ シングルレバー水栓⇒手指の作業が難しくても安心安全に使用できる <p><みんなで遊びたい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブラインドサッカー⇒ボールの中に鈴が入っていて音で場所がわかる ・ オセロ⇒白面はつるつる、黒面はざらざらで、仕切りのラインは突起になっている 		<p>*ユニバーサル商品の紹介</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ユニバーサルデザインとは文化、国籍、年齢に関係なくすべての人が過ごしやすくするものだと知った。 ②アルミ缶の工夫を知った。 ③家の中にもユニバーサルデザインがいっぱいあった。 ④障がい者の人でも水が出せる工夫に驚いた。 ⑤いろいろな不自由な人をたずけてあげたい。 ⑥たくさん教えてもらってよかった。 ⑦シャンプーとリンスのこと知らずに使っていた。 ⑧ブラインドサッカーは楽しい。 ⑨サッカーはまたみんなでしたい。 ⑩オセロが出来るなんて知らなかった。

生徒の作品



先生の声

**実施に当たり工夫した点
苦労した点**

- ・学校、学年及びクラスによる個性や、反応・理解力に合わせて、その場で対応する必要があり、質問の仕方、説明の仕方を小学生の目線かつ丁寧に行った。
- ・授業対象が3年生なので、できるだけ平易に説明をすることに努めたところ、児童も大変理解力がありスムーズに講義ができた。
- ・白杖体験では、以前は児童同士で体験する形をとっていたが、アイマスクを使いまわすことの衛生面の配慮と時間的にタイトであることへの考慮から、建築士が視覚障がい者役を務めた。

児童・生徒の反応

- ・授業対象が3年生であることから、わかりやすい「体験学習」によるところが効果的で、障がい者の人へのやさしい意識を向けてもらえる成果があった。(成果の手ごたえは、「3.学習の流れ 対象者の反応」欄を参照)
- ・後日に提供いただいた児童によって作成された新聞(別添)を拝見し、授業で理解されたことが反映されていることに感動し、今後の実践授業に反映できるものとして大事な資料になった。

**教師の変化
(担当、担当外を含めて)**

- ・学習カリキュラムに合うよう事前打ち合わせを重要視し、一層児童に沿った良い講義に繋がっていきたい。
- ・さらなる取り組みとして、事前に通学路のバリアフリーについて考えてもらい、発表の機会を作ることも考えていきたい。

学校の先生からの声

①住教育授業を行った感想、児童・生徒の反応、授業効果などについてご記入ください。

- ・ 普段何気なく目にしていた人たちがどのような事に困っているのか、また、この設備はなぜついているのかということを知ることができた貴重な時間でした。
- ・ バリアフリー、ユニバーサルデザインといった言葉すらも耳にしたことがない児童がほとんどで、自分の身近に隠れているバリアフリーやユニバーサルデザインに興味を持っていた。
- ・ 学校内にも見られるバリアフリーやユニバーサルデザインについて考える機会が持てた。
- ・ 一緒に生活している支援学級の児童のニーズについても少し考えようという気持ちを持てた。
- ・ 支援学級の担任の先生からも「とてもいい授業だった。ぜひ来年度も引き続きお願いしたい」というお話をいただきました。

②助成を受けた団体様と、どのような経緯でお知りになり、住教育授業を受けるに至ったのか、ご記入ください。

(他の学校様の参考にさせていただきますので、できるだけ詳細にお願いいたします。)

- ・ 貴会の出前授業は、以前にもお願いした経緯がある。
(インターネットでバリアフリー出前授業を検索すると出てくる)